

第3章 団塊の世代や元気な高齢者が主体となって

地域を活性化していくために

1 意識や理解度によって異なる地域活動の参加状況

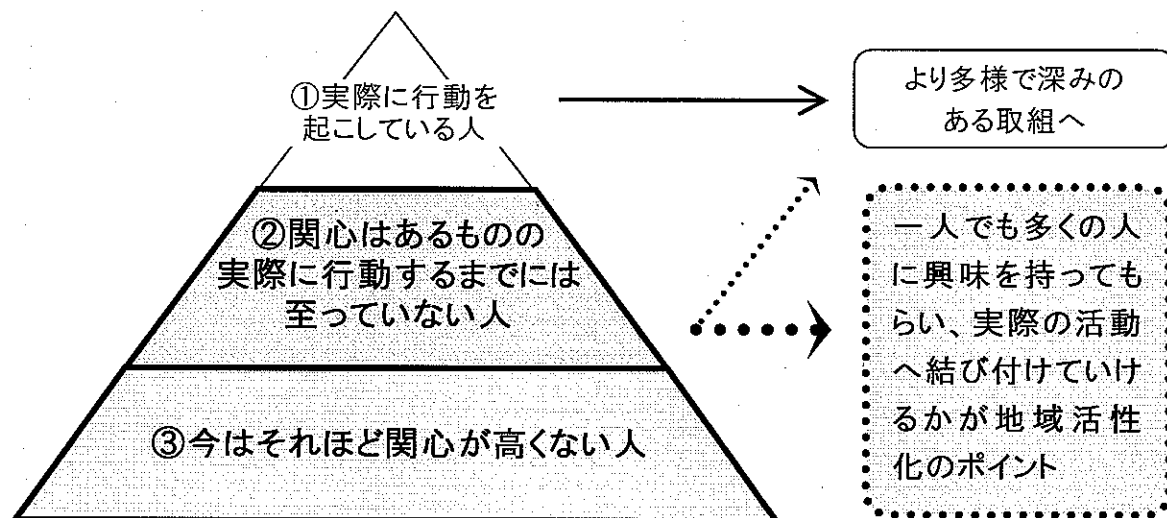
○ 団塊の世代や元気な高齢者の中でも、地域活動や社会貢献活動に対する人々の意識や理解度は様々である。

○ 意識や理解度に応じて、

- ① 参加意欲が高く実際に行動を起こしている人
- ② 関心はあるものの実際に行動するまでには至っていない人
- ③ 今はそれほど関心が高くない人

に分けた場合、②及び③にとどまっている人が多いと推測される。

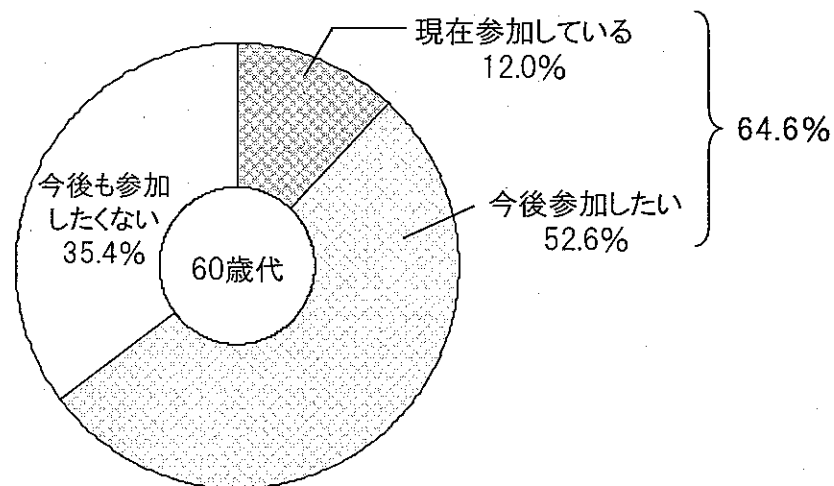
○ 団塊の世代や元気な高齢者の潜在的な可能性を引き出し、地域活性化の主演として活躍してもらうためには、実際に各種活動に参加している人に対して、地域福祉分野をはじめとする社会貢献活動への参加を促していくことはもちろんのこと、特に②及び③の状況にある人に、地域活動等へ興味を持ってもらい、実際の活動へ結び付けていけるかが地域活性化のポイントである。



参加意欲と実際の参加状況のギャップ

- 内閣府の調査によれば、60歳代ではボランティア、NPO法人など地域活動への参加状況について、6割を超える人が参加意欲を持っているものの、実際に参加をしている人は1割程度となっている。高い参加意欲があるにもかかわらず、実際の参加に結びついていない状況にあることが分かる。

図表 18 ボランティア、NPO法人など地域活動への参加状況



資料：内閣府「平成16年度国民生活白書」より作成

- また、これから高齢期を迎える人々についても、多くが会社の中で現役として働いているため、同様に高い参加意欲が伺えるものの、実際の行動を起こしている人はまだ少ないものと考えられる。
- ※ これから高齢期を迎える人々の高い参加意欲については、図表12「地域活動・社会貢献活動への参加意欲<東京都>」（14ページ）を参照

2 団塊の世代や元気な高齢者を地域活動へ導くアプローチ

(活動内容によって異なる参加のハードル)

- 地域においては、スポーツやレクリエーション活動などの気軽に参加できるものから、高齢者福祉や子育て支援などのように地域への社会貢献度が高いものまで様々な活動が行われている。
- これらの活動には、参加へのハードルの高さに違いがある。多くの活動に参加し活躍してもらうことが望ましいが、これまで地域活動等へ参加したことがない人に対して、最初から多くの分野への参加を求めることは難しい。

(地域活動参加へ導く2段階のアプローチ)

- 地域活動参加へ導き、継続的な参加へと結び付けるためには、自分自身の興味や意欲に応じてスムーズにとけ込むことができる分野から徐々に活動の幅を広げていくことが重要である。
- 具体的には、
 - ① まず気軽に地域活動へ参加してもらい、新たな生きがいを見つける
第1ステップ
 - ② 地域福祉分野など多様な社会貢献活動で担い手として活躍する第2
ステップの2つの段階を経ながら、自然な形で地域での活動参加が浸透していく仕組みづくりが必要である。

(第1ステップの活動意義と地域に与える影響)

- 第1ステップは、まず地域へ顔を出すことで、つながりを持つとともに、高齢者自らの「生きがい」を探ることが主目的である。
- これからの人生には多くの自由な時間がある。会社を退職後は、地域社会との距離は近くなるため、身近な地域の中に趣味や楽しみといった新たな「生きがい」を見つけることが、いきいきとした人生を送る上で重要である。
- また、会社という組織に帰属していたころと異なり、地域に何らかのつながりや関係を作ることによって主体的に社会参加の機会を作っていく必要がある。これは、地域に顔なじみの関係を築くことによって孤立を防止するという意味でも重要である。
- この結果、地域に様々な人のつながりが生まれ、地域がにぎやかになる。また、自分の住む地域に改めて愛着がわき、さらなる地域活動に興味や関心が出てくる。こうして地域活性化の芽が生まれる。

(第2ステップの活動意義と地域に与える影響)

- 第2ステップは、「地域の担い手」として活躍することで、地域に活躍の場を見つけ、自己実現を図ることが主目的である。
- 高齢化の進展により、地域に一人暮らし高齢者や認知症高齢者などの見守りや支援を必要とする高齢者の増加が予想される中、これらの人々を地域において支える存在がより重要になる。そのため、高齢期を迎える中であっても、元気なうちは、地域の担い手として活躍することが期待されている。
- 担い手として活躍する元気な高齢者にとっても、高齢者福祉でのボランティア活動などを通じて、社会に貢献することにより、大きな満足感を得ることができる。地域を支える喜びを味わうことは、自らの人生に新たな楽しみを加えることにもなる。
- 団塊の世代や元気な高齢者が、担い手として積極的に社会貢献活動に参加することで、地域を支える人材が増加する。
- 様々な担い手が、地域に高齢者福祉の分野のみならず、子育て支援や通学路の安全確保など、多くの分野に活躍の場を広げ、幅広く活躍することにより、世代を越えた幅広い交流が生まれる。
- 団塊の世代や元気な高齢者による積極的な活動により、地域社会の支え合い機能が充実し、活力ある地域社会が実現する。

ステップごとのイメージ

第1ステップ

～まずは気軽に地域活動へ参加を～ 「地域デビュー」のすすめ

【活動意義】 新たな「生きがい」さがし

- ◇ 地域とつながることで、新たな楽しみを見つけ、いきいきと人生を送ることができる。
- ◇ 孤立防止という観点からも、地域に顔なじみの関係を築き、主体的に社会参加の機会を作ることが重要

【地域に与える影響】 地域活性化の芽生え

- ◇ 地域に様々な人のつながりが生まれ、地域がにぎやかになる。
- ◇ 自分の住む地域に改めて愛着がわき、さらなる地域活動に興味や関心が出てくる。

第2ステップ

～多様な社会貢献活動で活躍を～
「地域の担い手」として地域を支える存在に

【活動意義】 地域に活躍の場を見つけ、自己実現を図る。

- ◇ 支えられる人も地域に増加する中、支える存在がより重要に。
- ◇ 社会に役に立つことで、大きな満足感を得ることができ、地域を支える喜びを味わうことで、人生に新たな楽しみが加わる。

【地域に与える影響】 活力ある地域社会の実現

- ◇ 地域の担い手として、地域を支える人材が増加する。
- ◇ 多様な社会貢献活動により、地域社会の支え合い機能が充実し、活力ある地域社会が実現する。